

イランにおけるマイノリティ — 「女性、生命、自由」運動の継続的な弾圧

2024/08/05

国連人権高等弁務官事務所

イランに関する独立国際事実調査団は本日、新たな意見書を発表し、イランにおける民族のおよび宗教的マイノリティ、特にクルド人やバルーチ族、は 2022 年以來、抗議参加者への政府による弾圧によって不均衡な影響を受けていると述べた。この抗議運動は、2022 年 9 月にイラン系クルド人女性がヒジャブ着用義務に関するイランの法律を遵守していないとして「道徳警察」に逮捕された後、身体を拘束されたまま不法に死亡したことから始まった。同意見書は、恣意的な逮捕、拷問、レイプ、強制失踪、ジェンダー迫害など、イランの治安部隊がマイノリティに対して行なったさまざまな人権侵害（多くは人道に対する罪に相当する）を記録している。特に抗議活動に関連して、民族のおよび宗教的マイノリティの子どもたちが被った殺害や負傷、逮捕、性的暴力などの人権侵害は永続的な傷を残す。また、同調査団はジェンダーに基づく迫害という人道に対する罪は、民族や宗教に基づく迫害と交差していると指摘した。さらに、説明責任が未だ果たされていないことを強調し、被害者、特にマイノリティの女性と子どもの権利を確保するために、国および国際レベルの補償と説明責任に関する変革的な措置を求めた。